

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和7年度）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	(1) 自主財源の獲得に向け、関係機関との調整支援や先進的に取り組んでいる地域の情報提供を繰り返し行った。 その結果、地域が実施したイベントにおいて、出展料の徴収や寄付を得て自主財源の確保に繋がった。 しかしながら、地域に提案を続けているペットボトル回収事業や広報紙配布事業等においては、新たな契約締結に至らなかったため、今後もより一層、地域課題の解決に向けた取組を支援していく必要がある。 (2) 地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との間で連携、協働して取組が行えるよう、地域ニーズと大学・企業・NPO・個人等の強みをマッチングさせ、新たなつながりづくりを実現させてきた「まちづくり交流ライブ」の開催や「みてよし、すみよし、地域団体イベントチラシコンテスト」を実施した。 特に、「みてよし、すみよし、地域団体イベントチラシコンテスト」においては、大学、高等学校、フリースクール等の学生にもweb投票を依頼し、これまで地域と関わりの薄かった若い世代が参加したいと思える広報について考える機会をつくった。 (3) 組織運営の支援として、継続的にインターネットの活用、Instagramの立ち上げ支援等を行った。また、会計事務に係る支援として地域活動協議会補助金申請システムの導入に向けてシステムの説明や支援を実施した。

2 支援の内容及び効果等（2）

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	(1) 地域活動の広報チラシを活用した「地域団体イベントチラシコンテスト」のWEB投票では、58%が学生などの若い世代が投票し、若い世代が地域について理解し地域とつながる取り組みとなった。また『まちづくり交流ライブ』を、9月、3月に実施

	し、地域、事業所、学生が意見交換を行うことで地域課題を出し合い検討を行うことで課題解決に向けた取り組みを行った。参加者からのアンケートではイベント内容については好評であったが、参加者数が少数であった点が課題である。 (2-1)～(3) アドバイザーの指示のもと、2名の地域まちづくり支援員が分担して担当地域を受け持っている。区の担当者と毎朝の朝礼や月1回の情報共有会の開催を通じて地域の状況や支援の進捗状況、支援方針等について確認を行いながら支援にあたっている。また、広報・ICTアドバイザー1名が月2日程度従事し、専門的な支援を実施した。 地域の実情に応じた、迅速かつ丁寧な支援ができているが、主担当がいなくとも対応できるよう、アドバイザーや副担当者との連携が必要である。
--	--

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等（5つ以内）

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援の状況及び効果等

評価	左記の理由
B	各地域の実情に応じた「広報機能の強化に向けた支援」「会計事務にかかる支援」を重点支援策とし、次の取組を行っている。 （広報機能の強化に向けた支援） 広報機能の強化・充実に向け、SNSを活用した広報や、イベント等の広報チラシ作成の支援を行った。また、情報発信の手段としてはホームページのように更新作業を要するものではなく、住民が日常的に気軽に情報を確認できるSNSを活用した手法を中心に支援を行った。 その結果、ホームページを作成していなかった1地域がInstagramを開設し情報発信を行うことになり、これまでホームページの作成支援を続けていた1地域は、自らイベント情報発信を行えるようになった。ホームページ、SNSいずれも活用していない地域は2地域から1地域となった。 （会計事務にかかる支援） 会計事務にかかる支援については、地域に寄り添った支援により、会計担当者に個別の対応を行っている。 地域支援員が地域の会計担当者に対し、補助金を有効に活用するためのきめ細やかな支援を実施した。 その結果、事業内容の見直しを行い、事業を継続する地域や、事業の充実・拡充に向けた地域があり、適正な会計事務の執行が進められている。 加えて、地域へ事業の進捗状況を把握しながら、事業間流用も含め、迅速に精算報告できるよう、中間精算を実施することを提案した。

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

(1) アンケート調査

評価	左記の理由
A	地域活動協議会を対象に実施したアンケート調査結果では、「まちづくりセンターの支援がニーズに即した支援を実施していると思う」割合が100%となり、昨年度の83.3%から大幅に上昇した。(10地域⇒12地域) 今後も継続して100%を維持していくため、引き続き、地域の実情を把握し、工夫を凝らしてニーズに即した支援を講じていく必要がある。

5 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	まちづくりセンター独自の取組である「まちづくり交流ライブ」を通して地域活動協議会と大学・企業・NPO・個人等とのつながりづくりに寄与していること、また新たに「地域団体イベントチラシコンテスト」を企画・開催し、地域と関わりの薄かった若い世代との交流や意見交換を実施できたことは評価できる。 しかしながら、地域活動協議会における役員の高齢化や担い手不足が顕著となっているとともに、地域の自律度に大きく差が表れており、一律の支援ではなく各地域の実情に応じたきめ細やかな支援が必要であるため、各地域に必要な支援を分析したうえで、自律的運営の促進に努めてほしい。

(評価基準)

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。